

麦類技術情報No. 2

平成28年3月16日

麦類栽培者 各位

JA管農支援課
大湊村麦類生産班

麦類の生育状況と今後の管理について

平成28年産小麦は例年よりも早い雪融けとなっておりますが、ガンによる食害は一部を除き、見受けられません。しかし、積雪が少なく雪や雨風を直接受けた期間が長かったため、湿害傾向のほ場が目立っております。また、圃場によっては、雑草(スズメノテッポウ)が繁茂している圃場が見受けられますので、下記を参考に今後の管理に万全を期してください。生育調査は今月29日に予定しておりますので、結果については後ほどお知らせいたします。

1. 今後の肥培管理

1)まだ越冬後の追肥を実施していない圃場では、生育の回復を図るためN成分で 2～3kg/10aを目安に追肥を実施してください。(硫安現物で10～15kg/10a)

特に、基数が不足している圃場や、葉の傷みやストレスにより葉色が紫色になっている圃場については早めに追肥を実施してください。

ただし、生育量の多い圃場や追肥を実施した圃場については、今後の生育や品質に影響を及ぼす可能性がありますので追肥や施肥量を控えるようにし、幼穂形成期(4月上旬～中旬)に追肥を実施してください。

2. 雑草対策について

「スズメノテッポウ」を中心に各圃場とも雑草の発生が見られます。

各自圃場を確認のうえ、10a 当たり『ハーモニー75DF 水和剤』10gを水 100L(10,000 倍)に溶かして散布してください。

※スズメノテッポウについては5葉期まで。

スズメノカタビラには効果はありません。

麦の草丈が伸びると雑草へ薬剤が付着しないため、十分な殺草効果が得られません。